

元町だより

令和８年度
11 月号

心の育ち

文京区立認定こども園元町幼稚園
園長　前田　宏子

今年の９月はほぼ毎日雨が降っていましたが、１０月になると秋晴れが続き、気候もさわやかで気持ちの良い日が多かったです。そんな中、子どもたちは運動会をすることができました。当日はたくさんの保護者の皆様と来賓の方々に見守られて、子どもたちはのびのびと楽しく活動に取り組むことができました。ありがとうございました。

そして、運動会後は余韻を楽しみました。自分たちがやったリズムなどを他学年の子どもたちに教えたり、一緒に遊んだりしていました。自分たちが繰り返し踊っていたことを「やってみたい」と言われると、悪い気はしません。リズムの先生になって「こうやるんだよ」「手を伸ばすんだよ」など、自分たちが言われたこと？を伝えています。その姿は互いの頑張ったことを認め合う姿にも見えます。自分たちは頑張ってきた、他の学年の子どもたちも頑張っていた、と感じていると思うのです。５歳児のリレーにあこがれ、３、４歳児にも一緒に交じってやっている姿もありました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として１０の姿があります。５歳児後半に見られる具体的な姿をあげています。その中の一つに協同性があります。幼稚園でいう協同性とは「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる」姿としています。それぞれの思いを出し、互いのよさを認め合う関係の中で共通の目的の実現に向けて活動を進めていくことが大切です。「互いの良さを認め合う」気持ちがなければ、一緒に遊ぶ友達の思いに気付くことができないし、大切に思うことができません。相手を大切にするということは自分の思いを出さずに、相手に合わせることでもありません。

自分の思いを伝えながら、相手も思いを受け止めるということは難しいことですね。何の関係もない人とは難しいことですが、学級や学年の仲間との関わりの中で「相手の良さを認める」ことがあると、いずれ「互いの良さを認め合う」ことにつながってきます。一緒に荷物を運んでいるだけでは協同性が育っているとは言えません。その動きの中に「心の育ち」があることがとても大切なことだと思います。運動会後の元町幼稚園の子どもたちの様子は自分も相手も大切にしている姿があると思います。

保護者の皆様にはアンケートでたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。その中に「気持ちがとても成長した」という言葉がたくさんありました。ご家庭とともに子どもたちの成長を感じられることは大変うれしいことです。引き続き、本園の教育にご理解、ご協力のほどお願いいたします。







運動会で他学年がやっていたことを一緒に楽しんでいます！